

秋川高校跡地及び周辺地区のまちづくりに対するご意見・ご提案の概要について

★メタセコイア並木について

	ご意見・ご提案の概要
1	メタセコイア並木は保全して欲しい。秋の紅葉時期は大変きれいだである。保全をすれば、自然が多いあきる野市の象徴的な場所になると思う。
2	
3	当然、メタセコイアは阿岐留台地のシンボルとして、活用されることを施策として、承認される事業者が望まれる事は当然である。
4	
5	メタセコイア並木は保全することで、独特の景観が維持できるのではないのでしょうか。
6	たった2回ですが、メタセコイアの並木の下を歩いたことがあります。（もと）東急ストアの屋上から見る並木は四季折々に美しいです。得がたい並木なので、ぜひ保存したいです。
7	失ってはならないものは生き活きとしたメタセコイアの並木と生物の多様性です。何よりも、この地にメタセコイアを植えた東京都が、責任をもって、この並木を適切に管理、保全してほしいと思います。 1) メタセコイア並木はゆったりと残し、管理をしっかり 2) 適切な駐車場・駐輪場とトイレ・休憩所を 3) 周辺緑地は、市民参加で樹林地・花壇や畑を 4) リクリエーションとスポーツの広場 5) コンサートやマルシェができる空間
8	並木及びその両側は、市民（日の出町民、その他観光客も含む）が、ゆったりと散策や憩いの時間を過ごせる場所として活用したい。そのためには、東側の敷地に公園としての機能を持たせることが大事だと思う。メタセコイアの他に低木を配し、子どもたちがころげ回れるような草を整えたりする。また、トイレや水飲み場、四阿屋などを整備し、休憩の場としたら良いと思う。 したがって、少なくとも並木と公園の部分は都有地のまま残し、都が管理するよう求めたい。富裕団体の東京都なら、財政的にはわずかな負担だと思う。
9	
10	
11	メタセコイア並木を是非、残したい。かつてのように並木を歩きたい。新緑・紅葉の美しさは抜群でした。メタセコイアは、大変貴重なもの。東京都内でも一番立派な木々です。新緑も紅葉も美しく、景観としても素晴らしい。樹が存在しているだけで、炭素を固定し、地球温暖化対策にも役立っています。そんなメタセコイア並木ですから、何としても市も本気で保全の道を探ってほしい。
12	メタセコイア並木の保全については、東京都が推進している事業を盛り込むことで東京都が担ってくれるように働きかければ、東京都の管理の下で保全が可能かと思う。そのような形を取ればメタセコイア並木の保全と企業誘致を分けて考える必要はなくなると思う。
13	
14	
15	メタセコイア並木は、あきる野100景の一つであり、保全する価値は十分にある。並木周辺は企業に売却せず、維持管理は、市や住民有志によるNPOに委託するような形が望ましい。費用は都や市の拠出を基本とする。剪定のような大規模なものは業者に依頼するが草刈りや清掃等はボランティアを募ったり、募金を募ることで住民が愛着を持ち、行政におまかせではない、住民が自ら守り育てる場所となるようにする。定期的にマルシェを開催したり、映画などの撮影地として貸し出して得られた収入を維持管理に充てる。 普段は地域住民の憩いの場として、小中学生によるメタセコイア並木の写生会や写真撮影会、周辺の児童館や福祉施設の利用者などのお散歩コースとして歩いてもらうのも良い。
16	東京近郊田園都市として、市街化調整区域の多い場所であり、農業と森林を生かす可能性と近くの日の出インターと武蔵引田駅という交通の観点からみて、自然と観光・農林業、そして防災を象徴する並木道にすべきと考えます。
17	
18	
19	メタセコイア並木道の両側に野菜、西多摩名産の販売、キッチンカー、屋台などを配置し青空市にする。
20	跡地はもと文化施設で、多くの人が保存を望んでいるメタセコイア並木はその大事な遺産です。
21	メタセコイア並木道も季節の中で歩いてみたい。眺めているだけではもったいない。開放して、その良さを感じとり、そこから生まれる企画もあると思う。
22	
23	メタセコイア並木は、いつ見ても私達の心を穏やかにさせてくれます。数十年かかってできたあきる野市のオアシスです。是非今のまま残してほしいです。出来る事なら、自由に出入りできる散歩道として・・・。
24	
25	
26	
27	メタセコイア並木の幅員は樹木根鉢を考慮して、十分な幅を確保し、住民主体の保全団体と企業や自治会、行政が共働で維持管理を行う。維持管理費用は、誘致企業から資金を集める仕組みができると良い。各企業やショップがメタセコイア並木を活用し、イベントや行事を行えるようにする。また、利便性を考慮すると、エリア内に東西に貫通する道が必要である。HUグループ側の桜並木、旧東急北側の桜通りに挟まれている立地であることから、このエリア内に東西方向に桜並木道を通し、既存の桜並木と接続する。さらに、将来的に秋留台公園まで東に伸ばすことで、ウォークアブルな街が拡張され、市民に親しまれる空間とすることを提案します。
28	メタセコイア並木の保全は、跡地がどのような用途になろうと絶対に必要であり、維持管理においては、経費削減のためにボランティアを募れば良いと考えます。活用方法については、第三次産業のサービス業、観光業が適していると考えます。木々の空間を滑空して体感でも楽しめるジップラインの設置が良いと考えます。
29	
30	
31	並木を中心とした公園エリア。オープン型のカフェやドッグランなどを設け、人が集まり、憩う場所にできたらと考えます。ドッグランの併設も。民家が近くにないので、秋留野広場にあるような自由に使えるバスケットゴール、スケートボードや自転車・ストライダーの練習に使える広場を設置するのもいいと思います。
32	メタセコイア並木は、あきる野市の「豊かな自然」の中に、市民だけでなく、広く観光の名所として確固たる地位を保っています。そのような中、誘致企業の為にメタセコイアを伐採するとなると今の時代、開発優先の自治体のイメージが予想以上に悪くなるのが容易に予想されます。可能な限り、メタセコイア並木を保存することがベストな選択だと思います。樹木医の意見として、伐採等を勧められたとき、間引いた切り株はベンチや子供の遊具として、そのままの場所で活用し、木材は宿泊施設等で「あきる野産」として使用し、間引いた場所の近くでは、メタセコイアの実生または苗木を育ててその成長過程を見守るエリアを設けると、あきる野の「豊かな自然」の持続性が市内外で広まると思います。
33	敷地内に現存する並木などの植栽を残すことを視野に入れることで、この土地ならではの景観を提供できると考える。また、一定程度の大きさの樹木群があることで、撮影風景としては、不要な構造物などを目隠しする役目もあることを考察に加えたい。
34	街灯やライトアップ等をして、そのまま通路として利用する。 参考類似場所としては、昭島市のモリタウンのいちよう並木、昭和記念公園いちよう並木。
35	自分も含め、多くの人がメタセコイア並木の下を歩きたいと思える魅力のある場所だと思います。観光資源としても活用すべきと考えます。

ご意見・ご提案に対する市の考え方	
	市では、皆様からのご意見・ご提案及び上位計画等を踏まえ、メタセコイア並木の今後の方向性について、次のとおり考えます。 また、皆様からいただいたご意見・ご提案につきましては、今回公表しました「秋川高校跡地及び周辺地区まちづくり方針（案）」策定の参考とさせていただいたほか、今後の事業計画等においても参考とさせていただきます。 今後の秋川高校跡地及び周辺地区のまちづくりに当たりまして、地域のシンボルとなるメタセコイア並木を保全し、憩いの場として、マルシェやイベント等を開催するなど、さまざまな人・モノ・情報が交流できる環境及び緑を生かした空間づくりを目指します。 また、商業事業者や周辺事業者をはじめとしたPark-PFIやネーミングライツ等を活用するなど、持続的な維持管理が可能となるような仕組みづくり等を検討しま

秋川高校跡地及び周辺地区のまちづくりに対するご意見・ご提案の概要について

★望ましい誘致企業と今後の地域産業の振興方策について

	ご意見・ご提案の概要
1	跡地の企業誘致としては福祉や医療系の会社を積極的に誘致したら良いと思う。あとは工業的な会社だとあきる野市は自然が多いので、あまり公害を出さない事業が良い。例えば、半導体メーカーやAIサーバーなどデータセンターの進出も良いと思う。ただ、隣町だが近くに大規模なイオンもあり、店舗系の進出は厳しい場所とを感じる。あきる野市に定着出来、自然と共生出来る会社の進出であれば是非積極的に誘致して欲しいと思います。
2	森林公園を中核としたまちづくりとする。
3	秋川高校跡地の一部に東京都埋蔵文化財センターを誘致し市の発展に寄与する。特に前田耕地遺跡の遺物は、現多摩市にある都埋蔵文化財センターに保管、展示されているが、遺物の収集品の貯蔵庫にも活用され有効な施設となりえることから、東京都に懇願しあきる野分室を開設いただきたい。 基本的な跡地活用は脆弱なあきる野市の財政状況からしてみれば、都との交渉次第では有るが、税収の見込める企業の誘致は必要なことで有ると思慮される。やはりサービス業（イオンが有るので小売業は不可）の中でも研究施設や今後も国民にとって必要不可欠な業態の事業所が望まれる。
4	市の提言方針に強く共感します。特に、地域資源を生かした交流・多世代共生・農との連携という方向性に賛成です。秋川高校跡地については、週末に訪れたい場所が、将来の定住候補地にもなる副次的な効果にも注目し、以下のような具体的な構想を提案します。（例：流山おおたかの森） 公園には、幼児向けと児童向けでエリアを分けた大型遊具ゾーンを設置 農業体験ゾーンと収穫イベントを開催し、福祉B型事業所と連携して、維持管理も可能な仕組みを想定 マルシェを併設 高齢者向けに日常的な健康支援と交流の場を提供 地域連携型店舗を誘致し、カフェを設置
5	産業系と言われておりますが、産業の分類では教育・学習支援業や医療・福祉分野もあると知り、人口減少状況を考えると、小中学校の生徒や高校生など若者も利用できるような文化やスポーツ施設が良いのではないかと考えます。単に施設をつくるだけでなく敷地で活動できるようなスポーツ施設なども考えられます。文化施設ではあきる野市の歴史がわかるような展示物も含めたもの、絵画・彫刻、音楽、演劇等も可能な施設であれば。市外からの利用が増える可能性も考えられます。イオンと競合とならないようなスタイルが重要で、五日市線が便利に動けるようにするためにも多くの方が行ってみようと思える魅力あるものでの土地利用をして欲しいものです。
6	周囲の土地も含めて、市民が楽しめる公園にできれば、素晴らしいと思います。
7	「秋川高校跡地」のメタセコイア並木の値打ちを確かめ、東京都「グリーンビズ」に位置付く、都立自然公園にして、保全活用しましょう。 「秋川高校跡地まちづくり」を「秋川高校跡地周辺地区」と分離して、「メタセコイア並木公園」を核とする「暮らしを育む」「新しい魅力・価値を生み出す」「自然と産業の調和・共生で未来を創る」ゾーンとしましょう。 市民が参画する「メタセコイア会議」を中心に、１００年を見通した１０年～２０年計画を練り上げ、市民・あきる野市・東京都が共働して実現にみんなが汗を流しましょう。
8	北側にイオンモールがあり、引田駅近くにもスーパーができるという話も耳にするので、商業関係の誘致は無理だろう。また、製造業はメタセコイア並木や周辺の環境にとってふさわしくない。 ①農地がよい。企業＝製造業＝工場という捉え方から、少し視点を変えて見た方がよい。企業や法人で参入しようとするところが出てくる可能性がゼロではない。 ②都市マスにある「社会環境の変化」の一つ、「少子高齢化」に対応するために、看護学校や介護養成学校などを設置するのはどうか。 今の時点では東京都に入る金は減ったとしても、「開発」一辺倒の施策ではなく、持続可能な社会環境をつくっていくことを考えれば、将来的にはプラスになると思う。
9	都民の貴重な財産なので、安易に企業などに売却することは反対します。都の財政事情からも急いで売却しなくてもよい。企業を誘致しても雇用が増える保証はなく、企業の都合で撤退することも考えられます。メタセコイア並木を中心に自然公園として保存し、サッカーとラグビーができる専用グラウンドを作ってください。都民の憩いの場として活用することを提案します。
10	一日中大勢の人が行き来する姿を見ることはとても活気を感じますがそれがありません。特に若者の姿を見かけることは少なくなっています。大学（学部でも）誘致して、日常的に若者の姿が街で大勢見かければ、街全体が活気づきます。市の自然環境の状態から見て大学の農学部誘致は農業の活性化だけでなく、農業に従事している方々にとっても刺激になり、お互いに力を合わせて取り組む中で素晴らしい作物や産業に発展することも考えられます。
11	メタセコイアの樹の生態からも並木だけではなく、その周辺を含めた公園が必要なので、できれば秋川高校跡地全体が公園であれば、なおいと思います。
12	公共施設の改修、統合（ふるさと工房、五日市資料館、二宮郷土館、地域交流センター、中央図書館、戸倉しろやまテラス）を見据えて「あきる野市歴史資料展示館」とあきる野市の野鳥、昆虫の展示する「自然科学体験資料館」の建設。
13	「福祉文教地区」は一度浮上したと思うが、変えることができるならそちらを希望する。「産業地区」であっても、外から大きい企業を呼び込むのではなく、あきる野市の特色を生かした地場産業（農業、林業を基礎とした6次産業＝1次×2次×3次の複合が見込めるような）を盛んにするような使い方。自然エネルギー発電などエコにつながる使い方。メタセコイア並木を保存し、緑豊かな公園、子どもがどろんこになって遊べるプレイパーク。五日市憲法や貴重な化石、文化財などの自然博物館的施設がほしい。
14	所有地である跡地に開発を限ってほしいです。現在、住宅や田畑になっているところを開発しても武蔵引田の開発地に近く、住宅を開発したり商店を作っても無駄と思います。
15	大規模企業誘致は撤退した時のリスクがあることから、並木の西側はエコ・サステナブル・ウェルビーイング（福祉）な分野の小規模事業の集合体、東側はTokyo・多摩の魅力を発信する事業体といったテーマに基づいて、西側は医療・介護・福祉/環境・リサイクル/防災関連/農業・林業・水産業関連の商品サービス開発のような企業が望ましい。医療介護関連においては、周辺の福祉や高齢者施設、西秋川衛生組合、行政の防災部門と組んで実験や共同開発するようなスキームができると地域との繋がりができるしこの地域ならではの良いと思う。東側は、多摩産材などのショールーム・モデルルーム/カフェ・多摩地域の歴史、文化、自然科学の展示館でオープンスペース（空き地）がたくさんあると企業の展示会や防災訓練をしたり、非常時の避難場所等にできる。
16	防災を核とした事業者の誘致と都市近郊農業の発展、緑地公園とすることへの優遇措置をすべきです。強力な企業誘致活動の展開に行政が力を割くのではなく、強力な都市近郊農業、林業振興のための調査活動と市内従事者の要望聴取活動を展開すべきです。
17	産業系であれば医療機関、介護施設でIT企業はダメ。 あきる野市の特徴を生かした施設で五日市憲法など観光客を呼び込める施設。 あきる野市は公園などが少ない、東京都に働きかけ都立公園に併設されるとなお良い。
18	秋川高校跡地は所有地であり、都民・市民の財産です。この所有地が存在するあきる野市の特性を生かせるように活用することを東京都に求めるべきです。 現在、東京都には自然史博物館がありません。近隣を見ても埼玉県には、県立の「自然の博物館」があります。神奈川県にも県立の「生命の星・地球博物館」があります。東京都内には、説明したようなあきる野市や日の出町という、多量の化石などを算出する貴重な地域があります。秋川高校跡地という所有地があるのですから、この地域の特性を発信させるため、秋川高校跡地の一部に東京都立自然史博物館の設置を求めるべきです。
19	冒険遊び場が併設された観光地にし、遊歩道、サイクリングロードなどでほかの観光地、全地域につなげ、畑があり、川があり、田んぼがあり、山があり、風光明媚なあきる野市、これら自然を生かしたまちに、市と都と企業と協働事業として取り組んでいただきたい。
20	税収は大切ですが、公有地ですから大多数の市民の安全と福祉のために使いたいものです。広いスペースは残しておき、予想される直下型地震の防災拠点があれば安心です。また、あきる野市でも進行する気候温暖化、これを和らげるシンボルとして植物・植樹園に整備するのはどうでしょう。児童公園や若者広場など、次の世代のために役立てることも有意義なことと考えます。
21	跡地がどのような状態か、わかりませんが、できるだけ手を入れず、静かな森林、農地として生かして欲しい。
22	募集項目について、答えるような簡単な状況ではありません。市は跡地を売ってしまったら駄目です。土地を売らず、あきる野市固有の自然史博物館、五日市憲法草案を知らせ、いずれ文教地区として都と交渉して、実現をと希望します。
23	
24	民間デベロッパーに売却することは断念してください。あらためて市民の意見を集め、東京都に対し、地元市民のために役立つ活用計画を立てるように要請することを求めます。所有地売却を前提とした上で、意見募集を行うのは不当であり、実質的に市民の意見を聴かない態度であると考えます。非民主的姿勢を改めていただくよう強く要望するものです。
25	現在市が進めている委託作業は、高校跡地をデベロッパーが買い易い環境を整えることだと理解します。公有地である高校跡地が私有地になれば、それは買った人の自由であり、市民が関与できないのが普通ではないでしょうか。従いまして、高校跡地に対する私の意見は、高校跡地を市街化区域へ変更することに反対、市街化区域に変更した跡地をデベロッパーなど私企業への売却にも反対、業務委託した企業が進める作業の即時中止を求めます。
26	あきる野学園に通う子どもたちや、障がいを持つ子どもが生活できるグループホーム（とくに女子のホームは少ないので）が建設されたらと思います。また、となりのあきる野学園の職員の方や保護者の皆様が、どんなところがあればよいと願っているか、声を聞いて欲しいと思います。



27	変化するもの「産業」と、普遍的なシンボルである「メタセコイア」が共生するヴィレッジ。サステナブルな産業ゾーンとして稼働させるために、新陳代謝し、規模・業種ともに多様性を伴った産業の集合体とすることがベターだと考えます。交流環境としても機能するために、今後の成長分野、必要とされる分野で、市民との接点が想起できるもの、またはそういった意識を持つ企業が望ましい。 例としては、AIロボット開発製造、太陽光パネルリサイクル、都産都消の農産物、多摩エリアクリエイーターズヴィレッジ、カフェ・レストラン、文化継承やワークショップエリア、ギャラリー、子供の遊び場・広場・自学スペース。
28	将来的なリスクの心配が少ないことや地域密着の事業を展開している鉄道事業者を選択すべきと考えます。鉄道事業者による鉄道博物館や鉄道公園等の設置が良いと考える。 東京都が都民参加型で推進している「東京グリーンビズ」の取組を最優先する必要がある、企業と住民の両者に有益となるもの、更には市内に訪れる年間250万人の観光客も楽しめるものでなくてはならない。市内周辺や奥多摩の自然を見渡せる展望タワーを設置することが最善の方法であると考えます。また、周辺の土地を利用して「田んぼアートや畑絵」をつくり、展望室から楽しむこともできます。
29	あきる野みらいの杜プロジェクト 持続可能な都市・地域づくりを推進する「東京都の緑の取組Ver3」の趣旨に沿い、地域の歴史・教育・環境資源を融合したモデル拠点を目指す。 ・五日市憲法記念ゾーン　・科学と未来ゾーン　・子供の森ゾーン　から構成されサステナブルな設計要素から、教育施設や地域と連携し、都市と自然をつなぐハブとして活用して欲しい。また、東京都には自然史博物館が存在しません。秋川高校跡地を候補地とすることは、地域資源を生かした施策であり、都民教育や観光振興にも寄与します。市民の財産を守りつつ、地域の歴史・自然・文化を未来につなげるまちづくりを強く希望します。
30	大企業の誘致でいわば「タテ型」の牽引でまちづくりを考える限界が見えるので、気候危機と食糧自給、全世代でのケアの重要性ということから、この地域の農業そして農業関連産業との連携を考えたまちづくりが必要と考えます。メタセコイア並木とこれに連続する農業公園をシンボルとして、この地域の整備を進める。 多摩地域の都市農業推進の拠点となる農業公園を作り、周辺の江戸野菜の栽培・流通の拡大とともに二宮地域の縄文の歴史・文化アートと連携した事業を進める。 大企業の誘致ではなく、地域の中・小規模企業、協同組合として、NPOや労働者協同組合などが、水平的に連携することが、地域の雇用や経済循環を導きます。
31	複数の企業で分割利用してもらうことで、万一経営不振になった場合のリスクを分散します。主たる誘致企業を工場や事務所など閉じた施設にはせず、人が集まる施設・企業が入ると良い。物流は、周辺の車両の通行が増加し、メタセコイア並木の活用とも相反するので不適です。 提案としては、福祉乗馬施設、ボルタリング施設、パルクールパーク、QUESTなど、スキー・スノーボードのマットジャンプ・サマーゲレンデ施設などは近隣にあまり施設がなく集客能力も高いと思われます。屋外でもシーズンを通して利用できます。他にも、フットサルコート・スケートボードパークなども近隣にありますが、集客の可能性はあるかと思います。
32	全世代の市民の健康に資する「健康・スポーツ施設「アリーナあきるの」」と施設利用者向けの宿泊施設および農業体験つき地域滞在型宿泊施設による事業を提案します。 競技スポーツの他に、簡単な体操や避難時の健康体操のようなプログラムが実践できる設備はまだ日本に存在しないので、ぜひ全国に先駆けて作りたいです。近年、国内外での経済情勢に不確定要素が多くなり、大企業を誘致したからとて継続して利益をあげられるとは限らないので、事業は複数の企業体が望ましいです。宿泊施設は、
33	映像作品の撮影用途として街並みを造作し、貴重なオープンセットとしての活用を見込む。撮影時以外に地域住民や観光客も出入りして楽しめるテーマパーク的公園の性格も持たせることも可能。街並みのテーマは例えば、昭和レトロや大正モダンなど。収益構造としては、ロケ地利用のほか、観光入場料、商店テナント料が考えられる。他のテナント例としては、ドローン撮影技術関連、敷地内土木関連を優先的に行う工務店、マイクロバス等の車両レンタル、敷地内植物管理を行う園芸店
34	望ましいもの アウトレットモール、アウトドア専門店、グランピング宿泊施設アウトドアや自然のアクティビティに特化させて、周りの山川やサマーランド等を紹介することで市への繋がりをつくることができる。 望ましくないもの 高層ビル、高齢者施設、外国人が定住してしまう企業及び施設 交通を考えると商業施設の方が良いか考えます。また、景観も悪くなります。将来を考えるなら若者・子供を基準に考えた方が良いでしょう。外国人については、すでにあきる野市への定住者が増えてきていますが、文化が違うせいか治安が悪くなっていきます。また、都心部と違い、それに対処する事が難しい為です。
35	メタセコイア並木を抜けると大人も楽しめる子ども向け体験施設(自然や科学など?)があるような、外からも人を呼べるような活気あふれる施設があるとより素敵なまちになると思います。または、東京都の防災拠点になるような施設だったり、看護や介護の学校など教育施設など、長期的に多くの人々の役に立つようなものも良いと考えます。 東京都ではなかなかないひらけた広大な土地なので、大きな倉庫や工場などなるべく景観を損ねるものであって欲しくないと願います。

ご意見・ご提案に対する市の考え方	
	東京都として、秋川高校跡地活用の意向が無いことを伺っていることから、市では、皆様からのご意見・ご提案及び上位計画等を踏まえ、望ましい誘致企業と今後の地域産業の振興方策につきまして、次のとおり考えます。 また、皆様からいただいたご意見・ご提案につきましては、今回公表しました「秋川高校跡地及び周辺地区まちづくり方針（案）」策定の参考とさせていただいたほか、今後の事業計画等においても参考とさせていただきます。 当該地区におけるまちづくりの目標を、交通アクセス性の良さ、あきる野市の拠点である秋川駅・武蔵引田駅に近接する高い生活利便性、緑豊かな環境を生かし、「働きたくなる産業拠点の形成」、「暮らしたくなる生活環境の形成」、「行きたくなる交流環境の形成」とし、小規模事業所などの産業集積、都市の自立や地域産業の育成に資する産業系土地利用の誘導を図るとともに、産業集積やＩＴ関連、研究開発、物流関連施設などのほか、ＡＩ技術をはじめ、環境負荷の低減に資する新たな産業集積も視野に入れながら、産業基盤の整備を進めるとともに、人が集い、周辺環境との調和や共生に配慮した企業誘致を目指します。また、地域のシンボルであるメタセコイア並木を中心に回遊性や潤いのある街並みを形成するために、公園や緑地の連続性による緑のネットワークの構築を図ります。